

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要

建物名称	(仮称)アンピール新町 新築工事	階数	地上14F
建設地	熊本市中央区新町2丁目11-2、11-4	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	156 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年9月 予定	評価の実施日	2016年7月8日
敷地面積	1,284 m ²	作成者	佐伯
建築面積	564 m ²	確認日	2017年3月1日
延床面積	5,509 m ²	確認者	〇〇〇

■ 外観

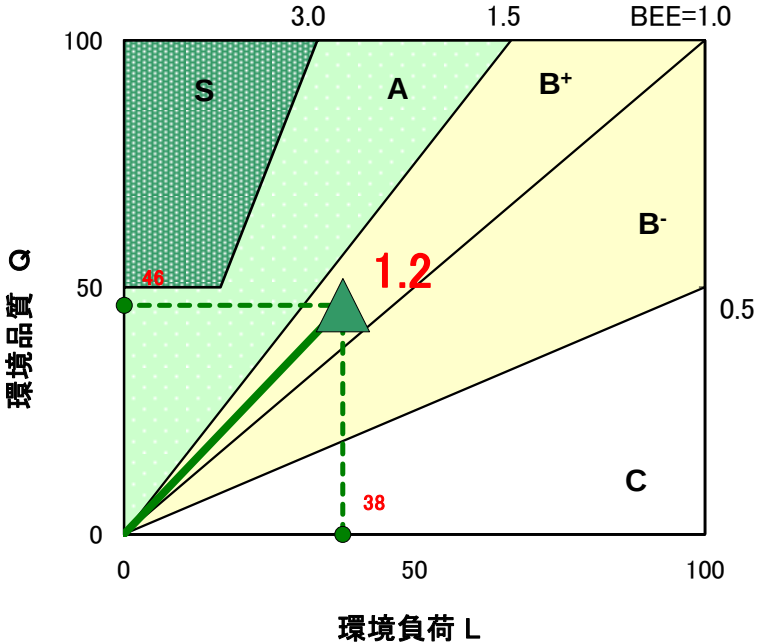


ス等
貼り付けは、
シートへ貼り付けしてください。

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

★★★★★



BEE = 1.2

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)

☆☆☆☆☆

排出率

70%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

76

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	87.6
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	61.2
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	65.0
【重点事項4】 循環型社会の実現	79.8

■ 熊本県重点評価基準

判定値 (評価点)	ランク表示
100点以上	    
80点以上100点未満	   
60点以上80点未満	  
40点以上60点未満	 
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

Page : 1/6

Sheet : 1/5

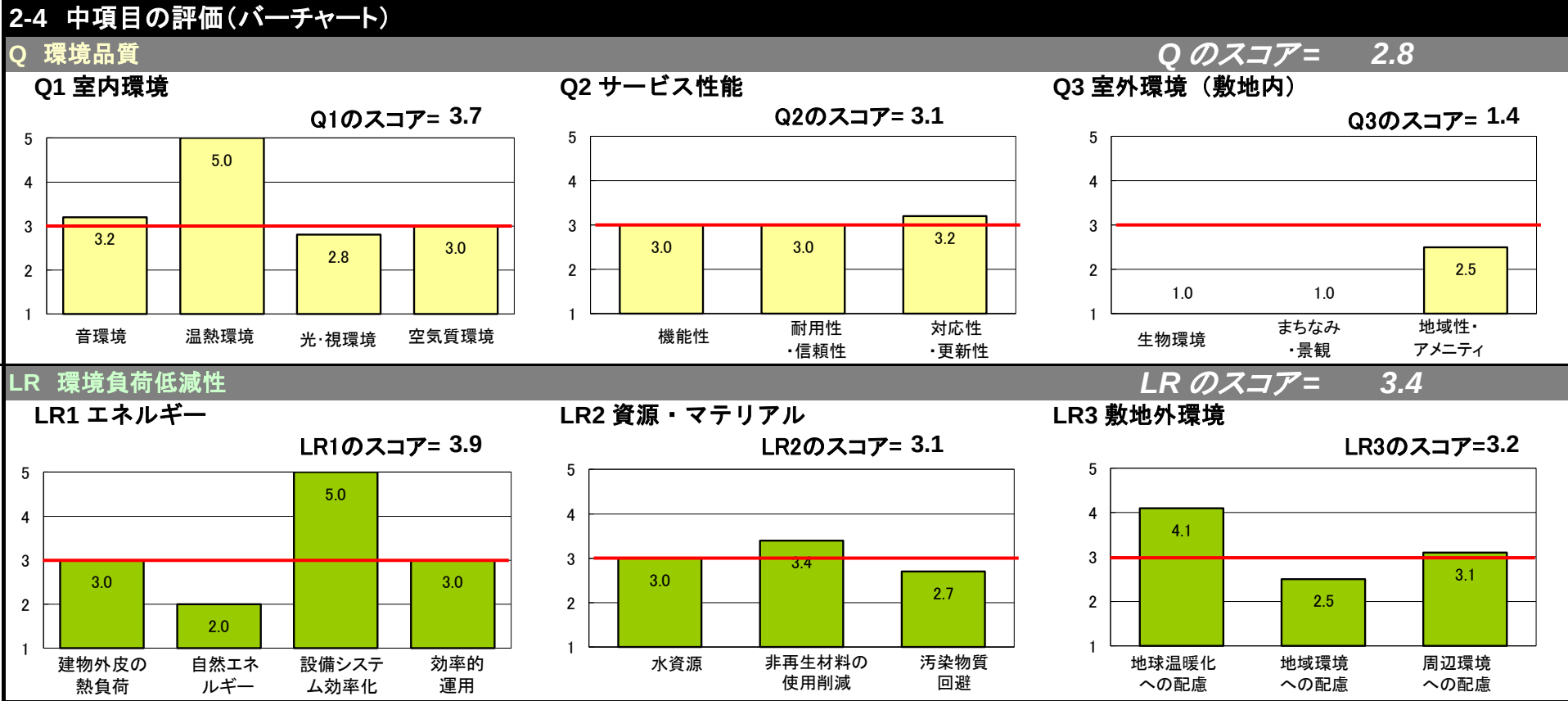
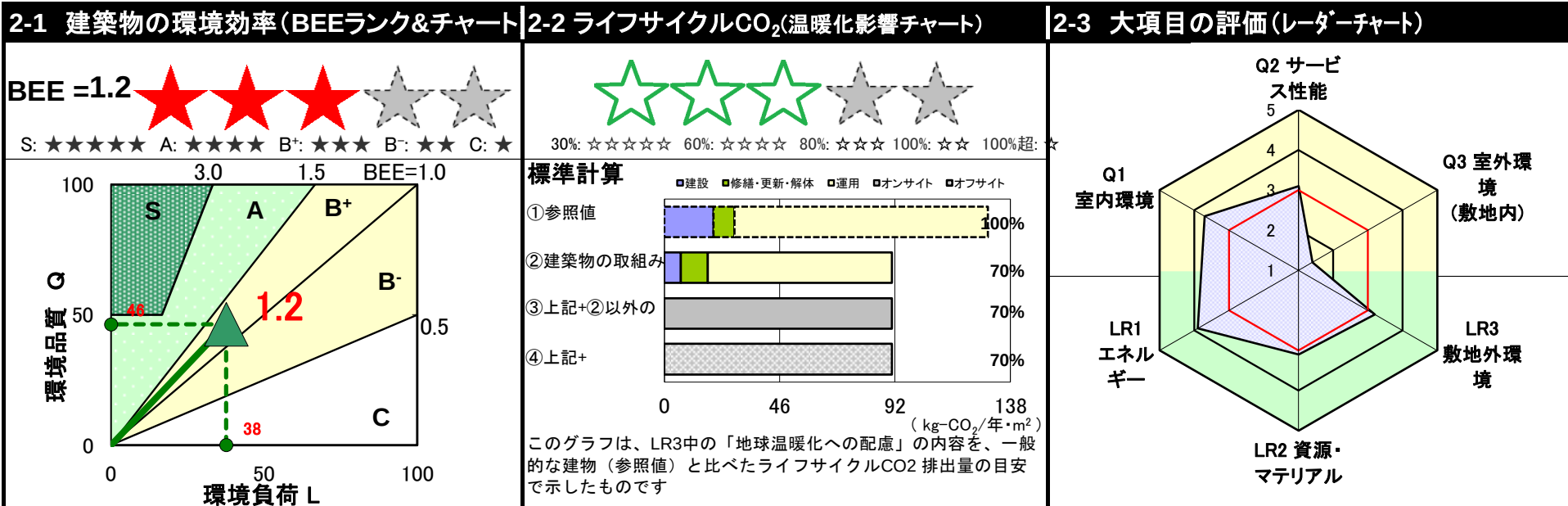
CASBEE®熊本《新築》評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)アンピール新町 新築工事	階数	地上14F
建設地	熊本市中央区新町2丁目11-2、11-3	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	156 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年9月 予定	評価の実施日	2016年7月8日
敷地面積	1,284 m ²	作成者	佐伯
建築面積	564 m ²	確認日	2017年3月1日
延床面積	5,509 m ²	確認者	〇〇〇



ス等
貼り付けは、
シートへ貼り付けしてください。



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2014年版 (仮称)アンピール新町 新築工事			欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)				
スコアシート 実施設計段階									
配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
					評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質									2.8
Q1 室内環境						0.40		-	3.7
1 音環境					3.0	0.15	3.3	1.00	3.2
1.1 騒音			一部T-1サッシを使用(AD-1) Dr-55		3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音					3.0	0.50	3.6	0.50	
1 開口部遮音性能		3.0			1.00	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能		3.0			-	5.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0			-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0			-	3.0	0.20		
1.3 吸音					3.0	-	3.0	-	
2 温熱環境					-	0.35	5.0	1.00	5.0
2.1 室温制御			断熱等性能等級4を満たす		-	-	5.0	1.00	
1 室温		-			-	-	-		
2 外皮性能		-			-	5.0	1.00		
3 ゾーン別制御性		3.0			-	-	-		
2.2 湿度制御					-	-	-	-	
2.3 空調方式					-	-	-	-	
3 光・視環境					2.4	0.25	3.0	1.00	2.8
3.1 昼光利用			間口の広い開口を確保 住戸部分は、庇・カーテンにより制御		3.0	0.30	3.0	0.50	
1 昼光率		3.0			0.60	3.0	0.50		
2 方位別開口		-			-	3.0	0.30		
3 昼光利用設備		3.0			0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策					1.0	0.30	3.0	0.50	
1 昼光制御		1.0			1.00	3.0	1.00		
3.3 照度					3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御					3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境					3.0	0.25	3.0	1.00	3.0
4.1 発生源対策			ホルムアルデヒド以外のVOCについても少ない材料を使用 建築基準法で満たす換気量の1.2倍		3.0	0.60	3.0	0.63	
1 化学汚染物質		3.0			1.00	3.0	1.00		
2 アスベスト対策		-			-	-	-		
4.2 換気					3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量		3.0			1.00	3.0	0.33		
2 自然換気性能		3.0			-	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮		-			-	3.0	0.33		
4.3 運用管理					-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		3.0			-	-	-		
2 喫煙の制御		3.0			-	-	-		
Q2 サービス性能					-	0.30	-	-	3.1
1 機能性					3.3	0.40	3.0	1.00	3.0
1.1 機能性・使いやすさ			熊本市福祉条例協議済 建指発第H28-173号		3.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性		3.0			-	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応		3.0			-	3.0	1.00		
3 バリアフリー計画		3.0			1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性					3.0	0.30	3.0	0.40	
1 広さ感・景観		3.0			-	3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース		3.0			-	-	-		
3 内装計画		3.0			1.00	3.0	0.50		
1.3 維持管理					4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		4.0			0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		4.0			0.50	-	-		
3 衛生管理業務		-			-	-	-		
2 耐用性・信頼性					3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震			劣化対策等級3		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性		3.0			0.80	-	-		
2 免震・制振性能		3.0			0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数					3.4	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		5.0			0.20	-	-		
2 外壁仕上材の補修必要間隔		3.0			0.20	-	-		
3 主要内装仕上材の更新必要間隔		3.0			0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0			0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0			0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0			0.20	-	-		

	2.4 信頼性			2.8	0.20	-	-		
	1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-		
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-		
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-		
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-		
	5	通信・情報設備		2.0	0.20	-	-		
3 対応性・更新性				3.0	0.30	3.3	1.00	3.2	
	3.1 空間のゆとり		階高2.96m	-	-	3.6	0.50		
	1	階高のゆとり		3.0	-	4.0	0.60		
	2	空間の形状・自由さ		3.0	-	3.0	0.40		
	3.2 荷重のゆとり			3.0	-	3.0	0.50		
	3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-		
	1	空調配管の更新性		-	-	-	-		
	2	給排水管の更新性	3.0	0.25	-	-			
	3	電気配線の更新性	3.0	0.13	-	-			
	4	通信配線の更新性	3.0	0.13	-	-			
	5	設備機器の更新性	3.0	0.25	-	-			
	6	バックアップスペースの確保	3.0	0.25	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	1.4	
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮			熊本市景観条例協議済 開景発第大28-108号	1.0	0.40	-	-	1.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5	
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-		
	3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.4	
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.9	
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	0.20	-	-	3.0	
2 自然エネルギー利用				2.0	0.10	-	-	2.0	
3 設備システムの高効率化			BEI 非住宅 1.00 住宅(専有部) 0.83	5.0	0.50	-	-	5.0	
	集合住宅以外の評価(3a.3b)			3.0	-	-	-		
	集合住宅の評価(3c)			5.0	1.00	-	-		
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0	
	集合住宅以外の評価			-	-	-	-		
	4.1	モニタリング		3.0	-	-	-		
	4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-		
	集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-		
	4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-		
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-		
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.1	
1 水資源保護				3.0	0.20	-	-	3.0	
	1.1 節水			3.0	0.40	-	-		
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-		
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-		
	2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				3.4	0.60	-	-	3.4	
	2.1 材料使用量の削減		ー	3.0	0.10	-	-		
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-		
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-		
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-		
	2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-		
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.20	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避				2.7	0.20	-	-	2.7	
	3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-		
	3.2 フロン・ハロンの回避			2.6	0.70	-	-		
	1	消火剤		2.0	0.33	-	-		
	2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-		
	3	冷媒		3.0	0.33	-	-		
	LR3 敷地外環境				-	0.30	-		-
1 地球温暖化への配慮			低Nox,Sox型設備機器の採用	4.1	0.33	-	-	4.1	
2 地域環境への配慮				2.5	0.33	-	-	2.5	
	2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-		
	2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-		
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-		
	1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-		
	2	污水处理負荷抑制		3.0	0.33	-	-		
	3	交通負荷抑制		4.0	0.33	-	-		
	4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.33	-	-		
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33	-	-	3.1	
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		評価する取り組みが4ポイント	3.0	0.40	-	-		
	1	騒音		3.0	1.00	-	-		
	2	振動		-	-	-	-		
	3	悪臭		-	-	-	-		
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-		
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-		
	2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-		
	3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-		
	3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-		
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		4.0	0.70	-	-		
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-				

CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

- ・建築物を中高層(14F)にし、廻りの空間をできるだけ確保するように努めた

Q1 室内環境

- ・仕様建材は、F☆☆☆☆製品とし、化学物汚染被害を防止する
- ・窓を大きくとり、採光を効率よくとれるようにした

Q2 サービス性能

- ・将来の更新を想定し、全室ビニルクロスを採用

Q3 室外環境（敷地内）

- ・外壁材(タイル・吹付塗装)の彩度を落したデザインとし、
周囲への太陽光の反射やグレアの軽減を図る

LR1 エネルギー

- ・LED照明器具を採用し、省エネルギーを図っている

LR2 資源・マテリアル

- ・限りある資源を有効に利用する
- ・節水器具の利用により、節水を図っている

LR3 敷地外環境

- ・過剰照明を避け、適度な外部照明
- ・隣地に対する影響とゴミの散乱を防ぐ為に、ストックスペース(ゴミ置場)を設置している

その他

- ・特になし

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)アンピール新町 新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		76
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				87.6	0.40	35.04
Q1-2.1.2	外皮性能	5.0	0.00			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	2.6	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	3.0	0.16			
LR1-2	自然エネルギー利用	2.0	0.21			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.32			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.11			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.11			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				61.2	0.20	12.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				65	0.20	13.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	1.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				79.8	0.20	15.96
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.4	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数